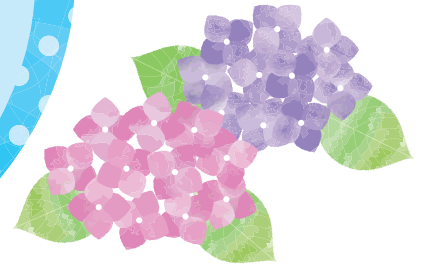


# ふくし“きりり人。”



ねもと りさ  
**根本 里咲さん**

社会福祉法人正和会 成華園デイサービスセンター



今回の「ふくし“きりり人。”」は、日立市にある成華園デイサービスセンターで、介護職兼生活指導員として活躍する根本里咲さんをご紹介します。茨城キリスト教大学で4年間福祉を学び、福祉の現場に出て3年目を迎える現在、どのような思いで仕事に向き合い、福祉の仕事にどんな魅力を感じるのかをうかがいました。

## 人の幸せを支える仕事がしたいから—

根本さんが福祉の仕事に興味を持ったのは、母親が介護職をしていたことがきっかけでした。高校卒業後の進路を決める際に、福祉を学びたいという思いになり、同大の生活科学部心理福祉学科に進学。「3年生の時にゼミの先生に、福祉の仕事は人の幸せを支援するためにあり、利用者様の人

生と深く関わるかけがえのない仕事だと教えてもらいました。漠然としていた私の福祉への思いが明確になり、福祉の仕事に就きたいと思いました。」と根本さん。ゼミの先生との出会いが、福祉の道に進む大きな一歩となりました。

## 現場に出てより多くコミュニケーション—

成華園での仕事は、入職した当初は同じ建物内の特別養護老人ホームで勤務、今年4月からデイサービスセンターで生活相談員兼務の介護職員として働いています。デイサービスに異動して2か月が経ち、現在はデイサービスの利用者や業務を知るために学ぶことが多いそうです。利用者の送迎やレクリエーション、生活機能訓練、入浴介助、排泄介助などを行い、「ご利用者様とコミュニケー

# 人と関わる仕事、人の人生に関わる仕事で、自分の人生も豊かに。



ションをとる機会を、より多く持てるように現場で仕事をしています。」と、忙しく充実した日々を過ごしています。

## 高齢者の人生に関われることが、やりがいー

福祉の仕事の魅力は、「ご利用者様の人生の今の時点だけではなく、過去にどのような仕事をしてきたのか、どういう生活歴があったとか、ご利用者様の人生に深く関わるができる仕事で、それがいちばんの魅力です。」と根本さん。高齢者の人生の中で、最後のステージにあたる部分にいることを強く意識して、利用者がどう生きたいのかを一緒に探していくことに取り組んでいます。「ご利用者様の人生に関われていると思う時、私は一番やりがいを感じます」と話していました。



## 福祉の仕事の魅力は絆を深めていけることー

根本さんの祖父が施設に入居する際に、家で世話をしたい気持ちがあり悩んだそうです。「施設のスタッフが、祖父に家族のように寄り添ってくれる姿を見て安心しました。私もそのように関わりたいと思っています。家族が近くにいない分、いつも私たちが家族のように関わって、絆を深めていけるようにしています。その絆を深めて行けることが、福祉の仕事の大きな魅力だ。」と根本さんは言います。さらに、もう一つの魅力は、「福祉の業界は専門職の集団であり、一人の利用者に対して大きな目標を決めたら、それに向かってチームで取り組んでいくいけること」だそうです。

## 生活相談員としてスキルアップしていきたいー

生活相談員という仕事は、施設利用者やその家族との相談業務や施設との調整や手続き、地域との連携など、介護福祉サービスにおける様々な「連携・調整」が大きな役割です。現場に出て3年目の根本さんは、「これからいろいろな面でご家族



やご利用者、専門職の方達とのつながりを大切にして、いろいろな方から幅広く吸収して、一人ひとりとしっかり向き合える相談員になっていきたい。」と今後の目標を話してくれました。大学で4年間学んで現場に出ても、実際にキャリアを積まないといけないことがたくさんあり、そういう時には先輩たちに相談をしてアドバイスをもらい、そのアドバイスを自分の武器にして乗り越えていきたいと意欲的です。

## 福祉の仕事へ挑戦ー

福祉の仕事の先輩として、この仕事を志す人や興味のある人へのメッセージをいただきました。「福祉の仕事は人と関わる仕事なので、人と関わるのが好きな人が一番向いていると思います。私自身、現場に出て2年ちょっとですが、福祉業界で働いて福祉の仕事の魅力にたくさん気づきました。人と関わる仕事、人の人生に関わる仕事で、自分の人生も豊かになっていくと思うので、迷っている人はぜひ挑戦してください。」人と関わる中で「楽しい」という思いを大切にしていきたいという、根本さんのような“きらり人。”を目指してみませんか。

